

# 2025年度 とうきょう すくわくプログラム活動報告

東京都町田市山崎町2261-1  
幼保連携型認定こども園 正和幼稚園

## 活動のテーマ

NEWティピ プロジェクト

## テーマの設定理由

子どもたちが園庭にあるティピの帆が短くなっていることに気づき、帆を張り替えたい!という思いから、意見を出し合い、NEWティピを作ってみる。建物の構造や仕組み、道具などを知り、興味関心を深めるため。

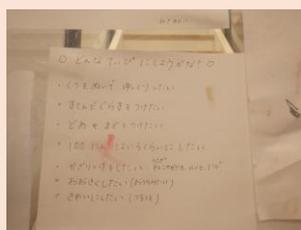
## 環境の設定・準備

・パソコン ・書画カメラ ・カメラ ・木材 ・布 ・竹

## 探究活動の実践

### 【活動内容】

### どんなティピにする？



5月、昨年度からティピの帆が短くなっていることに気が付き、自分たちがどんなティピにしたいのかを話し合い絵に描きだしたり思いを紙に書き出したりした。

「二階建ては？」 「100人は入れる大きさにしたい」  
どんなティピにするのか期待が膨らんでいる。

## ティピってこんな形



ティピの現状をカメラを使って写真を撮り、どのような構造になっているのかをじっくりと観察をした。  
「何本ある?」「どんな風にくっ付いている?」  
そこで気が付いたこと割りばしや短い竹を輪ゴムを使ってミニティピを作った。  
「ここはこう付けたらいいかな?」  
「結ぶの手伝うよ」など、子どもたち同士で会話をし、協力をしている姿があった。



## 作るのに必要なことは?



1級建築士を持っている職員と一緒に学園内の施設の模型や設計図を観察して、建物を作る時に必要なことを聞いた。  
自分たちがどんなティピにしたいのかをミニティピに素材を使って表現をした。  
「布がこれくらいの高さだと入れるよね」  
「飾りも付けたいね」  
次々と作りたいティピの想いが膨らんでいた。  
「作ったミニティピは土に建てよう!」  
実際のティピがどのようなになっているのかを観察して建ててみた。



## 自分たちも入れるティピを作りたい!



「ミニティピだけじゃなくて自分たちも入りたい!」  
その思いから、長い竹を使って自分たちが入れる大きさのティピを作った。  
どんな組み方、建て方なのか、撮った写真を書画カメラで映し観察したり、パソコンを使って調べたりした。



「ぐるぐるするだけじゃなくて、交互に巻き付けないと頑丈にならないんだね」  
早速、気が付いたことを試し、完成したティピに入ると自分たちの居場所を作った。

## 自分たちの想いが形に



子どもたちが「こうしたい！」と考えて、書き出していたものを直接、大工さんにプレゼンをした。その中で安全面などを配慮し、「窓をステンドグラスにしたい」「空が見えるようにしたい」という子どもたちの考えを取り入れ形にしていた。昨年度から興味を持っていた「空や雲」「光」を継続して行っていたことから、子どもたちの話し合いからも生まれていた。

ペンキ塗りは園行事時に、園児や保護者、地域の方々が木材を塗る作業をした。

ペンキを塗り終えた木材は子どもたちが見える環境で施工を行い取り付けていき、「どんどんティピになっていくね」「NEWティピだ」と完成していく様子を観察している。



## 光が入り込んでくると

考えていた窓用のステンドグラス（アクリル板）が届き、実際に手に取り友だちと顔を覗かせながら見つめてみたり、光の反射から地面に映る影に気が付いたりする姿があった。

「園庭がオレンジ色になったよ」

「地面に影になって映ってる」

「付けたらどうなるんだろう」

色の重なりや光の反射を手をかざして確認するなど、気が付いたことを友だち同士で話し、共有していた。

その場で大工さんと子どもたちが相談しながら、どの辺りに窓を付けるのかなどを決めていき、完成に近づいている。



## 僕たちのティピが完成!



木材も窓も付け終わり、遂にティピが完成すると、

「ここ、僕たちがペンキ塗ったんだよね」

「窓もこうしてみたかったんだよ」

「光がすごくきれいに見えるね」

「空が見えるの最高！」

どんなものにしていきたいのかを自分たちで話し合い形になっていく過程も観察していた。

「ここにベッドも作って置けるかもよ？」

「もっと飾り付けが出来るかな？」

自分たちの考えが形になった経験から次にもどんなことが出来るのかを出し合い、展開していきそうである。

また、時間ごとに光の射し込み方の違いにも気が付き、そこから、方角や太陽の昇り降りなどへの疑問が生まれ調べ、観察をする活動へと展開している。

## 保育者の気づき

「ティピを新しくしたい！」という思いから、どうしたら出来るのか、どのようにしたいのかを話し合い形にしていった子どもたち。その時の保育者の関わりで「どのようにしたら出来るかな」「みんなはどうしてみたい」などすぐ答えを伝えるのではなく、子どもたちと共に考える声かけの重要性を改めて実感した。

また、子どもたちの声から、すぐに作り始めるのではなく思いを書き出し、ミニティピを作り、施工に子どもたちが関わることなど、段階を経て、行っていくことで、より一層子どもたちの思いや考えが明確になり話し合いを行うきっかけとなっていた。

光の射し込みからは、色だけでなく、時間によって影のある場所が変わることに気が付き、そこから方角への興味へ発展していた。そこから、オンラインで繋がった世界との時差による昼夜の違いなどステンドグラスの光1つから、様々な活動へと展開をしていた。

今回の活動から、建物の構造や仕組み、道具を知ることだけでなく自分たちの思いを言葉にして伝え合い、様々な人と協力し合うことの大切さを知ることが出来た。

今後も、子どもたちの声を丁寧に聴き入り、どのようにしてそれを実現していくのかを子ども同士と子どもと大人が話し合える環境を整え、保護者や地域の方々も入りながら探究を深められる保育を心がけていく。